令和3年度入学生用カリキュラムマップ

【臨床教育学研究科 臨床教育学専攻　修士課程】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1．知識・理解		2．技能・表現			3．思考・判断		4．態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2
21MCEC1001	臨床教育学総論	1	日本の臨床教育学の開拓の試みは、1990年ごろから、新たに始まった。そうした臨床教育学の構想を、本学の臨床教育学研究科で蓄積されてきた研究・教育の努力と到達を踏まえながら、整理して提示する。	受講生のみなさんには、本講義の内容との関連で、臨床教育学のイメージを描き、自分自身の研究関心を明確にしてほしい。	◎	◎							
21MCEC1002	臨床教育学総合演習	1	子ども・若者の生育の過程、親・保護者の暮らしと子育ての営み、福祉・医療・心理臨床・教育、労働・行政・法律などの諸領域ではたらく「発達援助専門職」の実践などについての具体的事例を検討し、受講生のみなさんが、心理学・福祉学・教育学の研究視点の独自性と共通性を理解し、それらを総合しようとしている臨床教育学のイメージを具体的に描けるようにしたい。	領域横断的なカンファレンスの体験を通して、臨床教育学的な事例報告とその検討の仕方を獲得することを目標とする。					◎				
21MCEC1301	課題研究Ⅰ	1	受講生の関心領域に関する知見を文献研究によって拡げることを目的としている。 文献は、書籍、雑誌を用い、扱った文献の理論的背景、方法などについて批判的に読み解く。このことを通じて自身の修士学位請求論文の問題意識を明確にする。	修士学位請求論文の問題部分に関する理論的枠組みを構築するため、受講者の問題意識を、理論的に整理し、他の研究者や学生に説明できるようになることを目標としている。						◎			
21MCEC2302	課題研究Ⅱ	2	各自の修士学位請求論文完成に向けての理論的検討と、関連諸領域の文献検討を通しての、具体的研究の実現にある。	本授業の目標は修士学位請求論文の完成である。このため、次の各点までの到達が求められる。 1．課題研究Ⅰにおいて明確になった各自の問題意識を文章表現する。 2．研究の方法を明確化する。 3．中間発表等の機会を通じて、自身の問題を批判的に考察できるようになる。 4．修士学位請求論文の完成。					◎				
21MCEC1003	実地研究	1	自身の専門領域と異なる実践現場を訪問し、異なる視点から各自の実践や研究活動を振り返ることを目的としている。	自分の専門領域と異なる実践現場の見学を通じて、研究の広がりを得ることを目標としている。								◎	
21MCEC1004	調査研究計画	1	資料検索などを通じて各人の研究関心を明確にするとともに、研究目的の設定とそれに伴う研究計画の立て方を解説し、受講者は修士学位請求論文作成に向けて実践していく。	1．自身の取り組むべき関心を見つけ、それを整理して説明できるようになる。 2．関心ある領域の先行研究を的確に検索できるようになる。 3．研究目的に応じた研究計画を立てられるようになる。 4．調査および論文作成上の決まり（論文構成、引用の仕方、参考文献や注の書き方、倫理的配慮など）を知る。 5．アンケート作成の手順を知る。 6．簡単な統計結果の読み方や検定の仕方を知る。			◎						
21MCEC2005	教育調査・統計法	2	教育に関する調査・統計を行うための基本的な考え方を身につけるとともに、統計ソフトSPSSを使用してのデータ処理の仕方、および統計結果の読み方などについて学ぶ。	1．データの取り方、データの入力、確認の仕方を身につける。 2．SPSSを使用して、集計および基礎的検定の操作を覚え、その読み方、解釈の仕方を身につける。			◎						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1．知識・理解		2．技能・表現			3．思考・判断		4．態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2
21MCEC1005	社会調査法	1	対人援助職は、基本的にクライエントとのコミュニケーションを通して、クライエントと共に、クライエントが直面する問題や課題の所在を探り、その解決を図ろうと試みる。この実践の特徴は質的調査に着手する上で強みとなるが、研究者として調査にあたる場合は質的研究の理解が求められている。本講義では質的研究パラダイムの理解、基本的な方法論の理解、また質的調査結果の普及に関する理解を深め、質的調査の視点を学ぶ。	1．質的調査の研究パラダイムについて理解する。 2．質的調査方法を体験する。 3．質的調査結果の普及について現状を知る。 4．量的調査と質的調査の違いについて理解する。			◎						
21MCEC1101	臨床教育学特論	1	発達援助専門職（教師を含む）の人々が自らの実践を記録しその質を深めていく過程を支えることは、臨床教育学の研究・教育の重要な課題である。本科目は、この課題に迫る。	一人ひとりの子どもを他に置き換えられない個性を持った存在、諸々の要素・能力に分割されない全体的な存在として理解しようとしながら、その子が生存・発達・学習のため必要とする教育実践の全体的構想を描こうとしてきた生活綴方教育の実践記録を、熟読し共同で検討することを通して、援助的・教育的な実践の記録のあり方と、子ども（患者、クライエント）理解の基本的な課題を学ぶ。									◎
21MCEC2201	臨床教育学演習	2	受講生のみなさんが臨床教育学の研究方法に関する知見を獲得することを支える。	人間の生存・発達とその援助に関する、「質的研究」の基本的な方法を理解する。	◎	◎							
21MCEC1102	生徒指導特論	1	生徒指導の実践から得られた知見をもとに、今日的課題（いじめ、非行、不登校、ひきこもりなど）の実相を把握し、教育的、心理的、社会的アプローチから検討を行い、課題に応える実践のあり方を考える。	1．生徒指導実践事例をふりかえり、当事者理解の概念と方法について理解する。 2．教育や心理サービス、福祉援助実践における協同的対応の実態と課題を明らかにし、その取り組みの方途を考究する。						◎			
21MCEC2202	生徒指導演習	2	対人援助者の基本的な概念としてケアと自立を検討する。今日、困難な生活や育ちを抱える子どもや若者にかかわる教育・援助の場においてその専門性が求められている。育ちを支えることという基本に立ち返って個と集団を育てる生徒指導の専門性を考えたい。	1．ケアと自立の実践が育んできた生徒指導について検討する。 2．それぞれの援助実践の場、援助職の専門性などを考察しながら生徒指導の専門性について臨床教育の視点から理解する。							◎		
21MCEC1103	教育社会学特論	1	教育社会学の歴史や方法論についての理解を深めるとともに、教育実践など臨床の場に生かせる視点や調査方法を検討する。	1．研究論文の講読、議論を通じて、批判的に文献を検討できる。 2．方法論の特徴やメリット、デメリットを把握できる。 3．現場での応用やその注意点について検討できる。 4．研究内容をコンパクトにレジュメにまとめることができる。	◎	◎							
21MCEC2203	教育社会学演習	2	教育社会学関連の文献講読を通じて教育社会学の考え方や方法論を理解し、実際の調査データの検討を通じて、研究能力および実践に資する力を身につける。	1．研究目的、研究対象から適切な研究方法を考えられる。 2．結果の分析を念頭に、適切な研究計画がたてられる。 3．調査結果の分析や解釈が適切に行えるようになる。	◎	◎							
21MCEC1104	教育病理学特論	1	臨床教育学分野の主要文献の概要把握。特に関心を持った領域について関連文献によって理解を深める。	研究論文のあり方についての理解。教育問題の概略の把握。	◎	◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1．知識・理解		2．技能・表現			3．思考・判断		4．態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2
21MCEC1105	道徳教育学特論	1	教育基本法が改正され、人格の完成を目指した教育について具体的な指針が示された。それは人格の基盤となるのが道徳性であり、その道徳性の育成を幼児期から生涯をかけて行い、そのことで豊かな人生を送れるようにすることが大切だということである。そのような視点から道徳教育はどうあればよいのかについて本質的考察を行い、道徳教育の動向をグローバルな視点から分析し、我が国の道徳教育の課題を明確にする。その中で、自分自身の道徳的課題を明確にできるようにしたい。	1．今日における道徳教育の重要性が理解できる。 2．本質的理解、内容的理解、方法的理解を深め、具体的な道徳的事象について的確に分析し、対応できる。 3．自己の価値意識形成過程を振り返りこれからの自らの道徳的課題について省察できる。		◎							
21MCEC1106	人権教育学特論	1	20世紀最後の四半世紀は、市民や子どもの学習保障を「人権としての教育」として捉え直した時期であった。その成果は、子どもの権利やジェンダーの問題、さらに環境と個人の豊かな人間生活の追求への注視に繋がった。これらの取り組みをふりかえりながら現在の教育を見直すとともに、人権教育実践のはたす役割と取り組みを再考する。	1．今日の諸領域における人権に関わる問題について、多面的な視点から、その課題の本質に迫り、課題解決への糸口を考究する。 2．多様な人権に関する多様な見方・考え方を交流し、討論の中で、受講者自身の人権に対する考えを高めることができる。		◎							
21MCEC1107	現代教師特論	1	教師受難と呼ばれる時代に入った。旧来の教師像がもはや通用しなくなったのか、今日の社会情勢のなかであるべき教師像が歪められているのか。教育に関する古典に学びながら今日求められる教師像を再構築していこうと考える。	1．ルソーやペスタロッチ、フレーベル、デューイが提起する教師論・教育論に迫る。 2．援助職・教育職としての自己像、実践を省察する。							◎		
21MCEC1108	現代子ども理解特論	1	教育問題の今日的課題は、教師が子どもの発達を理解し、環境や社会状況を踏まえてカリキュラムを創り出すこと、すなわち教師の専門性の発揮である。本授業では、そのカリキュラムの創造の基盤である、子ども・親・教師の人生を物語り、相互に交渉し、理解しあう過程と、その分析の概念について検討する。	1．子どもの言動をその背景にあるストーリー（生活、民族、地域、家族）から理解すること（ナラティブ的統一性）の意義をつかむ。 2．自身の課題とする当事者理解と繋げて読み進める。								◎	
21MCEC2109	学校と子どもの心理	2	学校心理学における心理教育的援助サービスの知識と方法を学び、今日の子ども・教師・保護者への支援のあり方を検討する。	1．学校心理学の位置とその理論について理解する。 2．子どもをとりまく援助サービスの資源と、そのコーディネーターとしての学校心理士の職務と実践について、実践事例を出し合いながら考究する。								◎	
21MCEC1121	発達臨床心理学特論	1	本授業では、発達に関する理論と研究方法について学習した後、認知能力、運動能力、社会能力の各領域について、乳児期から老年期までを展望する。	本授業の目標は、受講者が各発達段階の特徴を理解し、その知見を各々の実践活動において利用できるまで習熟することにある。	◎	◎							
21MCEC2221	発達臨床心理学演習	2	幼児期から学童期にかけての社会性の発達は著しいものがある。この科目は、発達心理学に関する専門科目であり、社会性と情動の発達についての知見を学ぶことを目的としている。	授業では、「社会・情動発達」が臨床的にどのような意味を持つのか、またその支援における留意点などについて、前期・後期を通して学習する。本演習を通じて、子どもの持つ社会性と情動調整の基礎を学び、発達障害の一つの特徴とされている社会性の困難さが持つ意味についての基本的な考え方を身につけることを目標とする。	◎	◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1．知識・理解		2．技能・表現			3．思考・判断		4．態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2
21MCEC1122	学校臨床学特論	1	本授業では、学校現場で実際に日常的に起こっている問題解決の方法論について、多角的な視点からの最近の知見について情報提供する。実施方法としては、巡回指導の形態において、頻度が高いと想定される相談内容について問題解決のモデルを提示することにより、受講生が、学校での支援者の立場となったときに必要とされるカウンセリングの力量を高める。	学校での問題解決の方法論についての知識を習得。生徒への直接指導、教師への支援、家庭への介入、学校外の資源の活用など、解決方法の多様性の理解と同時に、実践時には異なった立場であっても協力しあう関係作りを目指すことの重要性に気が付くことを目標とする。							◎		
21MCEC2222	学校臨床学演習	2	学校臨床学の分野の中でも、特別支援教育に焦点を当て、学校現場での実践的な問題解決への方法論について学ぶ。支援目標として、学校現場で緊急かつ高頻度に提出されることの多い学校場面における逸脱行動の解消を取り上げる。本授業を通して、典型的な逸脱行動の解決手段について学ぶとともに、逸脱行動の起こりやすい環境についての理解を深める。	逸脱行動の解決に向けての討議をすることによって、逸脱行動を分析し、効果的な支援の提案をすることが可能になる支援のスキルを習得する。方法としては、事例を提示して実際に事例検討を実行し、専門的知識だけではなく、支援者としての自己分析作業も行う。							◎		
21MCEC1123	児童・青年臨床心理学特論	1	児童・青年臨床心理学に関する領域と対象を取り上げ、より高度な専門性の育成を目標とする。	児童や青年の精神身体的な発達の様相、「大人になる」ことの難しさについて学ぶことを到達目標とする。	◎	◎							
21MCEC1124	コミュニケーション特論	1	児童・生徒が高度なコミュニケーション能力を獲得するための理論と技法について学び、より高度な専門性の育成を目指す。	児童・生徒のコミュニケーション能力の向上に伴い、教師のコミュニケーション能力が向上することを到達目標とする。					◎				
21MCEC1125	教育心理学特論	1	学校臨床において必要となる児童・生徒の育ちと学びの基礎知識と実践のあり方を理解する。 本授業では、教育心理学の概念と、教育心理学を構成する諸領域について学習し、それらを通じて、今日の教育現場での問題を検討してゆく。この過程を通じて、学校臨床に必要な問題解決の技能を身につける。	本授業では、今日の教育現場で起きている様々な問題を、心理学の視点から分析理解するための基礎知識の習得を目標としている。これらを用いて、授業の中で提示される現場での問題を分析できるようになることを目指す。	◎	◎							
21MCEC1126	心理アセスメントの理論と実際	1	本授業では、心理教育的アセスメントの理論と実践方法について学習した後、実際に学校現場でよく使用される心理検査を経験し、結果の分析、解釈、さらには準備された検査結果から支援計画の作成方法を学ぶ。 アセスメントにより正確かつ迅速な現状把握をすることと、支援計画の作成が可能なスキルを高めることを目標とする。	アセスメントによく使用される心理検査（知能テスト、投影法テストなど）を自ら体験することにより、測定されているのは人間のどの能力なのかを推測する。アセスメントの結果が反映された支援計画作成を目指す。			◎						
21MCEC1127	障害児・者の教育と心理	1	特別支援教育の実施にとって不可欠である障害児・者の理解を深め、多義に渡る障害について学習、社会性、認知、運動面のアセスメントと支援の方法についての最新の知見を学ぶ。障害特性に即した効果的な支援を実践できるための知識を習得する。	1．年齢を問わず、障害特性に即した支援方法を知識として習得する。 2．各障害について、乳児期から義務教育終了後までの、臨床像を知り、利用できる支援についての情報を把握する。	◎	◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1．知識・理解		2．技能・表現			3．思考・判断		4．態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2
21MCEC2128	心理教育アセスメント特論	2	心理教育的アセスメントの必要性から開始し、理論と実践方法についての知識を学習した後、実際に学校現場でよく使用される心理検査を体験し、結果の分析、解釈、さらには準備された検査結果から支援計画の作成を実施する。	教育現場で使用されるアセスメントのための心理検査（知能テスト、投影法テストなど）を学び、測定されているのは人間のどの能力なのかを推測し、その結果が反映された支援計画作成を目指す。						◎			
21MCEC2129	特別支援教育特論	2	特別支援教育の対象は、幅広い。従来の障害の範疇にはいらない生徒に対しても、特別な対応ができるだけのアセスメントと支援の方法についての最新の知見を学ぶ。障害特性に即した効果的な支援を実践できるための知識を習得する。	多様である対象に対して、それぞれの障害特性や習得したスキルに対応した支援方法を知識として習得する。	◎	◎							
21MCEC1141	人間・社会福祉学特論	1	「老い」は多様で複雑な現象であり、さまざまな観点から知ることが望ましい。この講義では内容をInterdisciplinary（関連諸学提携）にすることで、「老い」とは何かについて多方面から学び考える。また歳を重ねることについて、多角的・批判的思考を用い、自分なりの「老い」に関する考えをまとめる。さらに、様々な背景を持つ人々の「老い」に伴う諸問題について考察し、福祉的介入について考察する。	1．「老い」の医学的、心理的、社会的側面を理解し、その相互作用を考える。 2．女性の「老い」、社会的弱者の「老い」など、さまざまな「老い」の特色を考える。 3．「発達・成長」としての「老い」の側面を理解する。 4．メディアにおける「老い」を分析し発表する。 5．ライフレビューを行い、レポートを書く。				◎					
21MCEC2241	人間・社会福祉学演習	2	ソーシャルワーク・アプローチを理解しておくことは、多種多様な問題を抱える人々の支援を行うにあたり、援助者としての実践力の向上に繋がる。この授業ではソーシャルワーク・アプローチの知識と技能の修得を目標とし、特に中高年のクライエントに焦点を当てながら、人々の多様性を理解し体系的な支援方法を考える。	1．ソーシャルワーク・アプローチの基本概念を理解する。 2．問題に対する適切なソーシャルワーク固有のアプローチ方法を理解する。 3．事例研究を通して、ソーシャルワーク・アプローチ方法を検討・分析する。	◎	◎							
21MCEC1142	子ども・家庭福祉学特論	1	近年着目されている「アタッチメント」を軸に講義を展開する。子どもの成長・発達に伴う養育者との愛着形成は、学童期-思春期-成人期-老年期にまで影響を及ぼすことが論じられるようになっている。近年では愛着関係の脆弱化も危惧されており、愛着障害の問題にも関心が高まっている。 子ども（人間）の成長発達と家族を支える方法を臨床教育学的な視点から理解する。	愛着の基礎理解、母子間における世代間連鎖、愛着障害の出現、不適切な関わりと虐待、学童期、思春期に与える影響、成人期以降に与えるとされる影響などについて、家族の発達段階を中心に理解を深める。	◎	◎							
21MCEC2242	子ども・家庭福祉学演習	2	子どもの育ちと子育ての課題についてアタッチメント概念を中心においた理解が深まることを目的とする。	1．我が国における子育て環境の変化を歴史的に捉えながら現代の問題点を理解できるようにする。 2．ライフサイクルにおける子どもの愛着形成とパーソナリティの発達との関係について理解する。 3．親の愛着的関係の特徴について理解を深める。	◎	◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1．知識・理解		2．技能・表現			3．思考・判断		4．態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2
21MCEC1143	臨床福祉学特論Ⅰ	1	臨床福祉学とは、生活困難を抱える人或いはその事象（その多くは生活全般の状況）に対し、課題の解決・軽減あるいは改善を目指すことを目的とした「社会福祉領域の実践方法への問い」である。本講義では、個人の生活困難の解決或いは改善を目指すためのミクロ的なアプローチの理解に焦点を当てる。	ソーシャルワークの専門性とその固有性について、ジレンマについて理解を深める。ソーシャルワークの価値、倫理、原理・原則を学ぶと共に、実践を展開するにあたっての困難性について、ジレンマの視点から学ぶ。そして、個人の生活困難の解決或いは改善を目指すためのミクロ的なアプローチの理解に焦点を当てる。特に生活困難者の「QOL」が高まるための支援方策、そのために支援者に必要な生活困難者の潜在的な能力（workability力）を見出そうとする「Strength」視点、困難な状況に対処するための「Coping」と「Reframing」視点について理解を深める。	◎	◎							
21MCEC2144	臨床福祉学特論Ⅱ	2	ソーシャルワークの視点を理解しておくことは、多種多様な問題を抱える人々の援助活動を行う上で客観的な視座の獲得に繋がり、その結果として実践力の向上が見込まれる。この授業ではメゾ・マクロの視点に焦点を当て、社会政策・公共政策の影響と研究方法の理解を目指す。同時に、メゾ・マクロ的な社会福祉的活動と研究を行う際の知識の基盤を創る。	1．メゾ・マクロというシステム的概念を理解する。 2．社会政策・公共政策について理解する。 3．研究論文講読を通して、社会政策・公共政策の研究方法を学ぶ。 4．関心のある分野の社会政策・公共政策を分析し考察する。	◎	◎							
21MCEC1145	教育福祉特論Ⅰ	1	本講義は現代日本の「貧困の実態」と国民が持つ「貧困観」を探索的に理解し、これらが人間の成長発達に及ぼす影響について考察を深めることを目的とする。	1．現代日本の貧困は「隠された貧困」ともいわれ、正確な実態把握はできていない。さまざまな実態、データ、声等を拾い集めながら、貧困への関心を高める。 2．貧困は個人の責任に帰される現象ではない。社会的要因、政策的要因、教育的要因などさまざまな社会構造と生活構造の元に発生するものであることについて理解を深める。 3．貧困が人間の成長に及ぼす影響について、主として子どもとその養育・教育環境を中心に考察できるようにする。 4．家族形態の変化と貧困の関連性について、「再生産」の視点で客観的な理解を深める。 5．若年出産、養育困難、不適切な養育、虐待、不登校、就学意欲の喪失等の諸問題を1．～4．の視点から分析的に捉えなおすことができるようになる。 6．「貧困」を「経済的貧困」と「精神的貧困」に構成し直した「貧困の文化」について理解を深める。	◎	◎							
21MCEC2146	教育福祉特論Ⅱ	2	本講義は教育福祉的課題として注目が集まりつつある「多様性」について、その現状を理解し、人々の生活への影響および支援のあり方について考察することを目的とする。多様性の中でも、LGBT（性の多様性）および外国につながりのある人々について取り上げる。	1．現代日本における「多様性」に関して理解を深めるために、性的少数者および外国につながりのある人々の実態について先行研究やデータを概観し、理解を深める。 2．わが国における性的少数者および外国につながりのある人々を取り巻く社会的、政策的、教育的要因について、当事者や支援者の声をもとに考察する。 3．各自の専門領域におけるマイノリティー支援の実際を共有し、今後の支援のあり方を検討する。	◎	◎							